

会社の概況

(2022年3月31日現在)

商号	株式会社朝日工業社 ASAHI KOGYOSHA CO.,LTD.
創業	1925年4月3日
設立	1940年8月8日
資本金	3,857,100千円
代表者	代表取締役社長 高須康有
従業員数	987名(連結)、939名(単体)
事業内容	■ 設備工事業 ■ 機器製造販売事業
事業所	本社および本店(東京都港区) 大阪支社(大阪市淀川区) 支店8ヶ所、営業所28ヶ所 機器事業部(千葉県船橋市) 技術研究所(千葉県習志野市)
建設業許可	国土交通大臣許可(特-1)第2822号 管工事業、電気工事業、 機械器具設置工事業、建築工事業 国土交通大臣許可(般-1)第2822号 消防施設工事業

連結子会社

(2022年3月31日現在)

国内	北海道アサヒ冷熱工事株式会社 旭栄興産株式会社
海外	亞太朝日股份有限公司 ASAHI ENGINEERING (MALAYSIA) SDN. BHD.

(注) 旭栄興産株式会社は、2022年4月28日をもって解散しております。

株式の状況

(2022年3月31日現在)

発行可能株式総数	27,200千株
発行済株式の総数	6,800千株
株主数	2,381名
大株主	

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
朝日工業社共栄会	584	9.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	502	7.82
朝日工業社西日本共栄会	501	7.82
朝日工業社従業員持株会	318	4.97
株式会社みずほ銀行	317	4.94
農林中央金庫	288	4.48
日本生命保険相互会社	250	3.91
高須康有	203	3.17
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	129	2.01
MSIP CLIENT SECURITIES	127	1.97

株式の所有者別分布状況

所有者	株主数	保有株式数	保有比率
個人・その他	2,169名	3,861千株	56.77%
金融機関	20名	1,674千株	24.62%
その他法人	117名	761千株	11.19%
外国法人等	56名	474千株	6.98%
金融商品取引業者	19名	30千株	0.44%
計	2,381名	6,800千株	100.00%

株主メモ

■ 事業年度

4月1日～翌年3月31日

■ 定時株主総会

毎年6月

■ 基準日

定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

その他必要がある場合は予め公告いたします。

■ 株主名簿管理人・特別口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目3番3号

みずほ信託銀行株式会社

■ 郵便物送付先

〒168-8507

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

■ 電話お問い合わせ先

0120-288-324 (フリーダイヤル)

※土・日・祝日を除く9:00～17:00

■ 特別口座お取扱店

みずほ信託銀行株式会社

本店および全国各支店

■ 単元株式数

100株

■ 上場金融商品取引所

東京証券取引所(プライム)

証券コード1975

■ 公告方法

電子公告により行います。

<https://www.asahikogyosha.co.jp>

ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

※当社は2022年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施いたしました。

※証券会社に口座をお持ちの場合、未払配当金の支払および支払明細発行以外のお手続は、お取引の証券会社にお申し出ください。

※特別口座では単元未満株式の買取および買増以外の株式売買はできません。



第93期 報告書

2021年4月1日 ▶ 2022年3月31日

株式会社朝日工業社



当期のポイント

受注高 **82,002**百万円 (前年比**15.7%**増)

売上高 **68,820**百万円 (前年比**2.3%**減)

営業利益 **2,287**百万円 (前年比**2.3%**増)

親会社株主に帰属する
当期純利益 **1,860**百万円 (前年比**2.1%**増)



Top Message

トップメッセージ

事業環境の変化に機動的に対応し、 持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

代表取締役社長 **高須 康有**

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、第93期報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当期の事業環境

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況が続く中で、設備投資や生産において持ち直しの動きが見られました。しかしながら、年明けからの新たな変異株の発生による感染の再拡大に加えて、ウクライナ情勢の不透明感が見られる中での原油高、資材高などの影響が懸念される状況が続きました。

当社グループの事業環境は、設備工事業につきまして、建設投資は底堅く推移しておりますが、受注競争の激化や工期の延伸、資機材の高騰などが懸念される厳しい状況が続きました。精密環境制御機器の製造販売事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響は軽減されましたが、FPD(フラットパネルディスプレイ)製造装置向け製品、半導体製造装置向け製品ともに、電子部品等の不足による生産計画の調整等により受注および生産は減少いたしました。

こうした事業環境の下で、当社グループは第17次中期経営計画の2年度に当たり、受注の確保と収益の向上に総力をあげて取り組んでまいりました。その結果、受注高は当初予想を上回りましたが、売上高は、主に設備工事業の受注時期が下期に偏ったこと等により当初予想を下回りました。利益面では、設備工事業における受注競争の激化や工期

延伸が懸念される中で、原価低減による売上総利益率の改善、経費の削減努力により当初予想を上回る成績を上げることができました。

今後の取組み

当社グループは3ヶ年を計画期間とする第17次中期経営計画(2020年4月～2023年3月)を策定しており、次期連結会計年度は最終年度に当たります。第17次中期経営計画は、第16次中期経営計画の成果を受け、現在、当社グループが直面している課題の解決と、先に策定した長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」に沿って、将来に向けた基盤づくりに取り組み、持続的な成長と企業価値の向上をさらに推し進めるものであります。また、基本方針として(1)魅力ある会社・職場づくりの推進、(2)利益重視の徹底、(3)将来に向けた経営基盤の強化を定めております。さらに、当社グループは、「地球環境と資源を大切にしながら、空気・水・熱の科学に基づく高度な技術によって、最適空間を創造し、人類文化の発展に貢献する」という企業理念に基づき、SDGs(持続可能な開発目標)基本方針を策定し、重点課題に積極的に取り組んでおりますが、今般、サステナビリティ委員会を設置し、グループ全体としてのサステナビリティの観点を踏まえた経営を推進し、持続可能な社会の実現を目指してまいります。今後のわが国経済は、当連結会計年度に引き続き、先行き不透明感が続く厳しい状況が懸念されますが、国内外の動向を注視し、中期経営計画で掲げた目標達成に総力をあげて取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも特段のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

財務ハイライト

単位:百万円



連結財務諸表(要約)

貸借対照表

単位:百万円

	当期末 2022年3月31日現在	前期末 2021年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	52,136	50,262
固定資産	19,944	21,237
有形固定資産	5,383	5,658
無形固定資産	1,031	1,235
投資その他の資産	13,529	14,344
資産合計	72,081	71,500
(負債の部)		
流動負債	35,576	34,687
固定負債	2,143	3,146
負債合計	37,720	37,833
(純資産の部)		
株主資本	30,046	28,783
資本金	3,857	3,857
資本剰余金	3,760	3,742
利益剰余金	23,120	21,900
自己株式	△ 691	△ 716
その他の包括利益累計額	4,314	4,882
その他有価証券評価差額金	4,652	5,254
為替換算調整勘定	170	108
退職給付に係る調整累計額	△ 509	△ 479
純資産合計	34,360	33,666
負債純資産合計	72,081	71,500

損益計算書

単位:百万円

	当期 2021年4月 1日から 2022年3月31日まで	前期 2020年4月 1日から 2021年3月31日まで
売上高	68,820	70,435
売上原価	60,357	62,024
売上総利益	8,462	8,411
販売費及び一般管理費	6,175	6,175
営業利益	2,287	2,235
営業外収益	360	316
営業外費用	51	64
経常利益	2,596	2,486
特別利益	360	239
特別損失	93	28
税金等調整前当期純利益	2,863	2,697
法人税、住民税及び事業税	1,173	585
法人税等調整額	△ 170	290
当期純利益	1,860	1,821
親会社株主に帰属する当期純利益	1,860	1,821

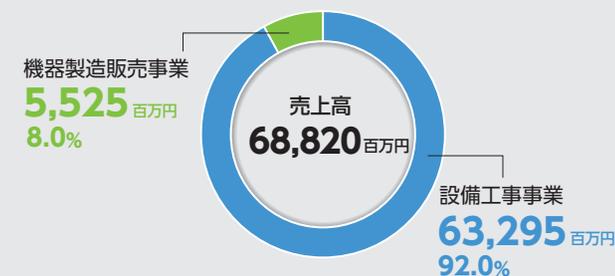
キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	当期 2021年4月 1日から 2022年3月31日まで	前期 2020年4月 1日から 2021年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	4,648	△ 1,459
投資活動による キャッシュ・フロー	89	△ 170
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,297	△ 1,453
現金及び現金同等物に係る 換算差額	30	5
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	3,470	△ 3,078
現金及び現金同等物の 期首残高	15,919	18,997
現金及び現金同等物の 期末残高	19,390	15,919

■ セグメント情報

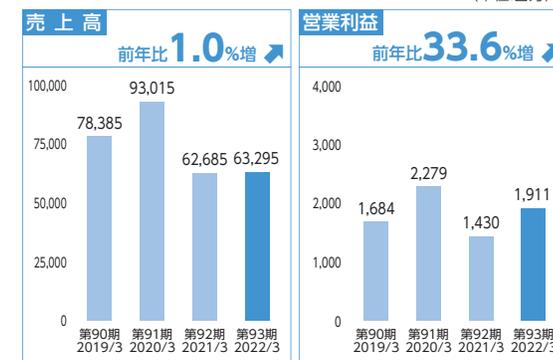
売上高構成比



■ 設備工事事業

事業内容：空調和、給排水衛生、クリーンルーム等の環境整備に関する諸設備の設計、施工および監理

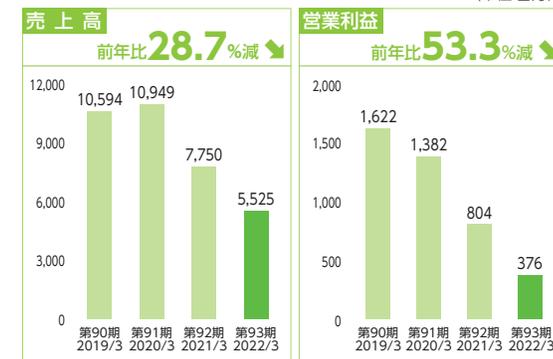
(単位:百万円)



■ 機器製造販売事業

事業内容：半導体および液晶製造装置向け精密環境制御機器の製造販売

(単位:百万円)



財務の詳細内容は、当社ウェブサイトからご確認いただけます。

朝日工業社

検索

決算説明会について

2021年11月26日に第一回機関投資家・アナリスト向け決算説明会をオンラインで開催いたしました。※第二回は2022年6月1日に開催
当日は社長より当社グループの概況や建設市場等の動向、期末決算の見通しおよび当社の成長戦略等についてご説明した後、質疑応答を行いました。

【決算説明会当日の質疑応答（抜粋）】



- ①プライム市場の適合基準で売買代金が不適合となっているが、具体的にどのような取り組みを行う予定か？
②SDGs対策として行われた提案や設備工事として具体的な案件はある？

- ①業績の向上を第一とし、**当社の魅力を知っていたくIR活動の推進および強化、コーポレートガバナンスの強化等**に取り組む予定です。
②**省エネ、環境改善、感染症対策技術を活かした工事のご提案など**を行っております。当社ウェブサイトに掲載しておりますコーポレートレポートに具体的な事例の記載がございますので、ご参照ください。



※QRコードは株式会社デンソーウェアの登録商標です。



なお、本決算説明会の資料につきましては、**QRコード**からご確認いただけます。今後もより多くの皆様に当社の魅力をお伝えするため、IR活動を強化してまいります。

働き方改革「Asahi Sun社員プロジェクト」の推進

業務の合理化・効率化への取り組み

既存の業務のムリ・ムダ・ムラを解消するため、業務の合理化・効率化に取り組んでいます。外部コンサルタントに「業務の棚卸し」と「本社各部門の課題の分析」を依頼し、その結果を基にプロジェクトチームを発足して、業務の見直し（統合、削減、廃止、アウトソーシング）に着手しています。また、各事業店から提出された改善要望を基に、事業店側における業務の見直しも推進しています。



プロジェクトチームキックオフセミナーの様子

今後も業務の見直しへの意識を高めながら、デジタル技術も積極的に活用して、業務の合理化・効率化に取り組んでいきます。

「バックオフィス」の推進

施工現場における長時間労働の改善を目的に、現場業務を事務所内で後方支援する「バックオフィス」を整備しています。現場業務を「技術業務」と「定型業務」に類別し、まずは「定型業務」をバックオフィス化し、施工現場で働く工事社員の負荷軽減に取り組んでいます。また、「技術業務」についてもバックオフィスで担当できる業務領域の拡大を図るとともに、現場業務における省力化・合理化の取り組みを全社的に情報共有し、施工現場における働き方改革を推進していきます。

